
全ては遅刻のおかげ

Lunaの光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

全ては遅刻のおかげ

【Nコード】

N7745C

【作者名】

Lunaの光

【あらすじ】

よう！俺の名前は夢人！なんて読むかはお楽しみだ！突然だが俺は恋をした！かわゆい女の子にほれた！その女の子が転校してきて、その女の子に告白するまでの話だ！

鼻血でぞう

なぜだろう、

こつも胸が痛むのは。

職員室のど真ん中…で、
俺は恋をした。

「絶対転校生だつて！
さつき職員室で怒られてたら、かんわゆい女の子が！」

「……夢人、^{ゆめいん}夢を見るな名前そのまんまだぞ！
それにそろそろお前は遅刻をどうにかしろ……。」

同級生、海に職員室にいた女の子のことを言う…が、
相手にしてくれない…。

本気だつてえええのおおおお！！！！！！

下校中、俺はずっと考えてた。

「しかしあの女の子可愛かったな…。」
あのときを思い出すと、顔がにやける。
俗に言う、半ニヤ状態。

目の前を、誰かが通る。

(え…、もしかしてもしかするといやもしかしなくても)

そう、今日見たあの女の子。

(うっは俺ついてね?かなりやべえw鼻血でそうwwww)
女の子を凝視。傍から見ると、かなりキモイ。

女の子はきよろきよろしている。
どうしたんだろう、そういえば親がないけれど。

(え、ちょやば女の子こっち来たってやばい顔がにやけて)

「あ…、すみません!」

女の子が話しかけてくる。

内心「うはwwwwおkwwうえうえwwww」な状態。

「ど、どうした!??」

むしろ俺がどうした、初対面でタメ口かい俺は。

「せ…、セブナイレブンはどこですかっ!？」

セブナイレブン!？

え、えーと？

ていうか何でセブイレ!？

「え…、えつと、ここには無いかな…。」

知つとるわポケ!俺のアホ!orz

住宅街のど真ん中にあるわけねえだろうが!

普通は道路沿いにあるだろ!俺!しっかりしろ!

「あ、えーと、口で説明するのもなんなので…、俺についてきてください。」

うっわ何だよ俺誘拐犯かよ。

とっさにこんなこと言うだなんて俺キモイ!

「あゝ、ありがとうございます。」

うはwwwねしすぎるwww
心臓飛び出そうwwwwww

ついに来た。

「……………」
「……………」

うわやべえ…、沈黙。

このまま行くと俺誘拐してしまうかm…って違う違う。

「あ、あのさ！」

沈黙をきってみる。

だだ、大丈夫か！？俺！

「…君、名前何て言うの？」

年齢が年齢だから聞けるけど、

これ大人の男が言ったら完璧怪しいよな、うん。

「え…？あ、き…きよって言います。」

きよちゃんかあ、

……。

絶対純粹だなこの子…。

初対面の俺に名前まで教えてくれるなんて
もつと警戒しようZE！

とか思ってる間にセイブレに着いちゃったYO！
くそ、もつと話したかったのに…。

「じゃ、じゃあまた会えたら会おうな、きよちゃん！」

精一杯の笑顔。

くそー、もつと一緒にいてえーよおー！！

「あ…、あの…！この近くにある中学の生徒さん…ですよね？」

あ、あの、これからよろしくお願いしますっ!」

うえ…???

「えっ、あっ…そうだったの?よ、よろしくな!」

うはw俺動揺しまくってるw

やっぱ見間違いじゃなかった!幻じゃなかった!

ああもう俺今なら樹海に行けるわw

次の日、俺はルンルン気分で学校へ行った。

実は毎朝「あいぼっど」なるもので音楽を聴いてきているのだ。

今日の朝は「かなりノリノリ」なロックでスキップまでしている。

周りからしたら、俺怪しいやつ…。

「夢人、すつげえ上機嫌だなw

何かあったのかよwwきめーよwww」

何かあったよ、つつかキモくて悪かったなw

教室。

きよちゃんきよちゃん、俺のクラスにこい、とばかり思う。

うわーきめえ。

ってか学年しらんのに何でこんなこと思ってんの俺。

ガラララッ！

うわ、ガラ悪イ担任。ひげがきめえw

「おいお前ら席つけw

たかね…きよ。

うはwもつ漢字も覚えたぜwww

しかし珍しい名前だな。心って書いてきよと読む。
うんうん。心がきれいなんだなあ。

「じゃ、えーつと…、おい夢人！

お前の隣空いてるだろ！そこに座らせるけどいいか？」

先生そこ以外空いてる席ないwww
いいに決まってるしwww

「どござどござどござどござwww」

うわ俺誰だよキモイよ。

そっぴや誰かが言ってたな、「恋は人を変える。」

うわ変わりすぎ。

変わりすぎだよ俺エエエエ！

「また会ったね？」

…高嶺心です。夢人くんって言うんだ…。」

あ、しまった。

あの時名乗り忘れてた…。

「あ、あのときは…、名前聞いといわなくてごめん。
えっと、広空夢人って言うんだ。いっちょよろしく！」

よろしくお願ひします、ときよちゃん。

かわいいよー、身長同じくらいだけど…。

(俺身長170cmなんだよな…。)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7745c/>

全ては遅刻のおかげ

2010年10月11日01時43分発行